

間違って使っている
日本語

3年A組39番 水田千夏

Abstract

I have been interested in mistaken Japanese sentences, for a long time. I studied about it.
The way was to use a book and the Internet.

I come to the conclusion that we use many mistaken Japanese sentences.

目次

1. はじめに
 - (1)研究内容
 - (2)仮説
2. 研究結果
 - (1)意味を間違っ使っている言葉
 - (2)重複言葉
 - (3)使い方を間違いやすい言葉
3. 考察・感想
4. 参考文献

1. はじめに

(1)研究内容

『わたしたちが普段、間違っ使っている日本語を調べる。』

(2)仮説

『わたしたちは知らないまま、間違った日本語を使っている。』

2. 研究結果

(1)意味を間違っている日本語

●さわり

「さわり」とは、一般的に歌や話の中心となる一番感動する部分についていうようになったもの。最初の部分という意味ではない。

⇒○歌のほんのさわりだけを聞かせる。

×歌の初めのさわりだけを聞かせる。

●圧倒的

「圧倒的」とは、他とはかけ離れて優れている、比べものにならないほど他をしのいでいるさまをいう。従って、優勢の場で用いて、劣勢の意味合いでは用いない。

⇒○圧倒的勝利を収めた。

×圧倒的大敗と喫した。

●抜擢する

「抜擢」ちは、大勢の中からこれだと思う人を選び抜いて、責任ある地位や役職につけること。ふつう、その役職についての力量は未知数だが、やらせてみるだけの価値があると判断して選ぶ。

従って、すでに才能が認められている人を抜擢するというのは、違和感がある。

⇒○新人を主役に抜擢する。

×ベテランをチームのリーダーに抜擢する。

●さわり

「さわり」とは一般的に歌や話などの中心となる一番感動する部分についていうようになったもの。最初の部分という意味ではない。

⇒○歌ほんのさわりだけ聞かせる。

×歌の初めのさわりだけを聞かせる。

●鳥肌が立つ

「鳥肌が立つ」とは恐怖や不快感などのために鳥の羽をむしったあとのように肌にあぶつぶつができることをいう。近年、感動した場合に使うことがあるが、鳥肌の気味悪さを思い浮かべれば適切ではないだろう。

⇒○恐ろしくて鳥肌が立った。

×あまりの美しさに鳥肌が立った。

※●こだわる

「こだわる」は他人からみればどうでもよいようなことに必要以上にとらわれることをいう。いわばマイナスの意味合いをもつ言葉である。しかし、近年はプラスに評価する意味合いで用いられることがある。妥協せず、意志や好みを貫く姿勢を評価してのことと思われるが漢語で「拘泥する」と置き換えていうように、「こだわる」ということばの原義からすると違和感が残る。

⇒○つまらないことにこだわる。

△料理の味にこだわる。

(2)重複言葉

●過半数を越える

「過半数」の「過」と「越える」は意味が重複している。

⇒○過半数を占める

●後で後悔する

「後悔」は字義通り、後で悔やむこと。「後で」と重ねていう必要はない。

⇒○後で悔やむ

後悔する

●違和感を感じる

「違和感」はしっくりこない感じ、なじまない感じの意味。「違和感を感じる」では「しっくりこない感じを感じる」ということになり、意味が重複する。

⇒○違和感を覚える

違和感がある

●まず最初に

「まず」と「最初」の「最」は意味が重複する

⇒○最初に

まず初めに

●募金を集める、募る

「募金」は寄付金を募ること。「募」に集める意味が含まれている。

⇒○募金する

※他にも間違っ使っている日本語はたくさんある。

(3)使い方を間違いやすい言葉

●愛想を振りまく

「愛想」は人に接するときの対応の仕方、人あしらいのよさのこと。

「愛想がいい」「愛想が悪い」「愛想がない」というように態度についていうのであって、振りまくものではない。誰に対しても好かれようとして愛想をよくすることは「愛嬌を振りまく」という。

●私的には

「的」は多く漢語に付いて、そのような傾向・状態・性質があることを表す接尾語で用いる。

自称につけて用いるのをよく耳にするが、「～としては」といえばすむし、そのほうがすっきりした言い方。

3. 考察・感想

<考察>

今回の研究結果から、わたしたちは普段、知らないまま日本語を間違っ使っているということが分かった。また、それを正しいものだとして使っていると考えられる。

また、今回わたしがしらべたのは、日本人が間違っ使いやすい日本語の中でもごく一部で、結果に書いたのはその中でも特に間違っ使いそうな日本語なので、実際は自分たちが思っている以上に、日本語を間違っ使っていると考えられる。

⇒わたしたちは普段、たくさんの日本語を間違っ使っている。

<感想>

今回、間違っ使いやすい日本語を調べてみて、自分が思っていた以上に間違っ使っている日本語が多くてとても驚いた。でも、その言葉の意味などをよく考えてみると、完全に意味を取り違えているんだと思った。

日本語は、時代に応じて意味が変化していったりするけど、まず、自分たちが使っている言葉の本当の意味くらいは理解しておくべきだと思った。

4. 参考文献

書名：勘違いことばの辞典

著者(編集者)：西谷 裕子

発行年：2006年11月10日

発行所：株式会社東京堂出版